

Lectures & Career

授業、就職活動——問われるオンライン化社会への適応力

◎ 授業・就職活動

コロナ禍で学びの場も一変。本学でも授業はZoomやオンデマンドを利用するオンライン授業を長期間行った。さらに上級生は就職活動においても従来とは異なる様式が多用され、前例のない動きに戸惑うことも多かっただろう。特異な状況にも順応して動き、希望だったIT企業から内定をもらった人間科学部のHさんに、授業の様子やどのような就職活動を行ったのか教えてもらった。



● 人間科学部 心理・行動科学科 4年生

Hさん

▶ NEC(日本電気株式会社)内定

■ オンラインでも
手厚い教員のサポートが力に

「コロナの影響は2年生になってすぐ。大学にも通えなくなり不安でした」と当時を語るHさん。授業がオンラインになることを確認したのは4月中旬。たまたま、自身はパソコンを扱うアルバイトをしていたため、Zoom形式の授業や、動画配信のオンデマンドにもすぐ対応できたが、オンライン中心の

授業が長く続くと、この状況に無気力になることも。そんな中でも、先生方の手厚いサポートに救われたと言う。「Zoomでも受講学生の意見や感想を一覧で見せてくださったり、対面と変わらないような工夫を凝らした質の高い授業が多くて。質問への返信も早く、オンラインでもすぐ連絡がとれる近さに先生方がいてくれたのは心強かったですね。」

往復3時間かけていた通学時間も有効利用しようと、TOEIC®を受験したり、ITパスポート資格を取得したほか、子ども食堂のボランティアにも力を入れた。通常通りの授業を受けていればできなかった勉強や経験ができたことは、大きな収穫となった。



▲キャリアセンターではきめ細やかな就職サポートを受けた

■ 例年と異なる
コロナスタイルの就職活動

就職活動を始めたのは3年生前期。キャリアセンターや大手就職情報サイトなどでの情報収集には特に力を入れた。「キャリアセンターではいつも親身に相談に乗っていただき、面談の帰りは毎回『よし、頑張ろう』と思えるようモチベーションをあげていただいた、本当に感謝しています。」

就職活動中は、インターンシップもオンラインで他の学生とのグループディスカッションを行うなど、通常とは異なるスタイルで行われるものが多かったそう。

「採用選考の面接がオンラインのグループディスカッションだった企業もあり、相手の話を聞く姿勢や発言するタイミングなど、インターンシップで学んだオンラインでのノウハウがとて役立ちました。」

後半からは志望先をIT企業に絞って約40社エントリーし、オンライン面接を続ける毎日。慣れない方式に苦労も多かったが、自宅という慣れた環境で落ち着いて面接に臨めたことに、オンラインのメリットも感じられたという。通常とは大きく様式が異なる就職活動にも素早く順応、無事に希望企業の内定に漕ぎつけた。

終始コロナに翻弄された大学生活だったが、「いろいろ考えたすと不安や心配が先行してしまう。どんな状況でも自分が一度やりたいと思ったことは、とりあえず体を動かすべき」と話す。自身も迷っていたカナダへの語学研修へ思い切って今年参加し、心に残る経験ができたそう。

入社予定企業の内定式も終了した今、「残り少ないキャンパスライフを楽しみながら、納得できる卒業論文を仕上げつつも、いい大学生活を送れたと満足して卒業したいです」と目を輝かせた。

ポストコロナ時代からのリスタート
「大学生生活を取り戻す！」学生たちの姿